

SAIL 'O' 通信 NO. 65

大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2017年8月10日発行

会報目次

1. ボランティアレポート、他
 - ① 客船歓迎ボランティア
 - 1) アムステルダム
 - 2) アルカディア
 - 3) フォーレンダム
2. 旅行記・イベント参加報告
 - ① セイリングボート
 - 1) 風待ち港～菱垣廻船の航跡
 - 2) 朝鮮通信使の足跡をたどる夢航海
 - 3) 長崎～熊本県天草下島一周クルーズ
 - ② イベント参加報告
 - 1) 帆船 海王丸 登しょう礼に参加して
 - 2) 毎年恒例 Sail'O' & ウィンズ お花見
 - 3) 入港パレードにいつてきました ～帆船フェスティバル 2017 海フェスタ神戸～
 - 4) 神戸帆船フェスティバルに参加して ～帆船フェスティバル 2017 海フェスタ神戸～
3. その他情報
 - ① 帆船情報
 - 1) クォウテモック東京寄港

記事本文

1. ボランティアレポート
 - ① 客船歓迎ボランティア
 - 1) アムステルダム
 - ◎ 2017年02月12日(日)09時～16時、13日(月)10時～16時
 - 国籍: オランダ 総トン数: 62,735トン
 - 入港: 2月12日08時 出港: 2月13日23時
 - 前港: サイパン 次港: 鹿児島 クルーズ: 世界一周
 - 乗船客: 入港時 1,123名 下船56名 乗船63名 出港時 1,130名
 - 乗員: 入港時 614名 下船5名 乗船13名 出港時 622名
 - 参加者:

2月12日: 秋永、遠藤、甲佐、近藤(昌)、新谷、高橋、田中(孝)、土井、中路 9名

2月13日：井口、岩村、遠藤、近藤（昌）、笹倉、新谷、田中（孝）、塚本、中路、山畑
10名

12日は通常より1時間開始時間が早いため、前日23時40分に小田原から夜行バスに乗車。土山サービスエリアでは積雪があるも道路上には雪はなく定刻より30分早い06時20分に梅田バスターミナルに到着。天保山岸壁に向かう。07時30分到着。倉庫から資材を搬出。会場はいつも通りのスペースを使用。設営。電源を確保しポットでお湯を沸かす。08時着岸。外からブラスバンドの演奏が聞こえてくる。日本で最初の港であるため、乗船客は天保山ターミナルで入国手続きを終えたあとにインフォメーションブースに来られる。

09時定刻に活動開始。バスツアーの乗船客がいるものの、個人での下船される方も多し。とぎれとぎれですが着物の着付けにトライされる乗船客。ご夫人が興味を示してトライし、夫を誘うパターンが多い。午後にはクルーも。お茶にはなかなか手が出ないようだ。

午後、余裕が出来たので、手書きに写真を張り付けた案内パネルを作成し、インフォメーションブース出入口扉①と着付けブース②、呈茶ブース③に設置する。翻訳は吉川さんをお願いしたもの。

① The passengers and crew of "AMSTERDAM" !! Wellcome to OSAKA! Why don't you try to wear the beautiful Kmono and try to drink "Matcha green tea" for your memory of Japan. We will offer you them by free of charge.

② The booth of wear the KIMONO. Please try it !! It's FREE CHARGE.

③ The booth of drink the MATCHA. Please try it !! It's FREE CHARGE.

パネルに13th Feb. 10:00~16:00と書いた用紙を貼り付けて、主な資材は倉庫に、残り天幕の後ろに片づけて終了。

翌13日は10時から活動開始。着付けブースには開始当初から多くの人々が来られ、昼食も交代で摂る状況。終了間際の16時にも乗組員が来られる。呈茶ブースにも来客があった。来客が少ない時には自ら抹茶を立てて頂くことや飲み方も伝えることができたらいいのではないかと思う。

バザーブースは両日とも盛況で土鈴や十二支置物、人形、かんざしなど殆どのグッズを持ち帰られました。年配の乗船客から「着付けやお茶の接待は素晴らしい。本当にいい思い出になった。」との感想をいただいた。

片づけを終えアムステルダムをバックに記念撮影。有志でいつもの立ち飲みに行く。

(中路さん)

2) アルカディア

◎ 2017年03月07日(火) 09時~16時

国籍： パーミューダ 総トン数： 83,781トン

入港： 3月7日08時 出港： 3月7日23時

前港： 高知 次港： 長崎 クルーズ： 世界一周

乗船客： 1,958名 乗員： 850名

参加者： 秋永、井口、大西、近藤（昌）、新谷、高橋、田中（孝）、土井、中路、古江、山畑（敬称略） 11名

3/7(火)大阪港に豪華客船「アルカディア」が入港、お客様や乗組員への着付け、お

茶席への招待を致しました。

私は、着付けやお茶のたしなみできません、そこで牛乳パックで作ったコマを持って行きました。①お客様に注意を引き、コマを黒いお盆の上に置き、息を吹きかけコマを回します。②お客様に加工前のコマを渡し、折り曲げ方を指導します(これがまた楽しい)。③お盆に乗せお客様に息を吹きかけて頂き回してもらいます(横からの吹きかけではコマが落下したり、回らなかつたりします)。

コマがまわった時のお客様の笑顔は格別でした。準備した牛乳パックのコマをさらに数枚お渡しします(乗船してからのコミュニケーションに役立てて頂くため)カメラOK?(英語でお願いします?)返事が来る前にもう横に並び記念撮影をします(最初私のカメラで撮ったら、お客様がこのカメラでとの要望がありました)。グーグル君がいないと物静かな私なんです、この場面では思いがけない国際交流が出来ました。

(高橋康雄さん)

3) フォーレンダム

◎ 2017年04月14日(金)09時~16時

国籍: オランダ 総トン数: 61,214トン

入港: 4月13日08時 出港: 4月14日16時

前港: 横浜 次港: 那覇 クルーズ: 世界一周

参加者: 秋永、岩村、遠藤、大西、近藤(昌)、笹倉、新谷、高橋、高見、田中(孝)、谷口、土井、中路、山畑、14名

着付けブース、呈茶ブース、チャリティーブースを設置しおもてなし。今回は16時に出港したので、出港見送りをすることが出来ました。プラスバンドの演奏に船上からもマーケットプレースからも拍手が湧き歓送の雰囲気をもりあげていました。着付けや呈茶の接待を置けられた乗船客の方々もデッキに出てきて、我々ボランティアスタッフに手を振っていました。また、セイル“O”フラッグの「See you again」が乗船客に見えるように展開しました。乗船客は写真やビデオを撮っていましたが、大阪入港のよい記念になったことと思っています。まさに手作りのお見送りになりました。

(中路さん)

2. 旅行記・イベント参加報告

① セイリングレポート

1) 風待ち港~菱垣廻船の航跡

5月20日13時30分、サザンクロスは隅田川の河口に当たる東京港晴海ふ頭に着岸しました。大阪を5月3日に出港して18日目のことです。途中の寄港地は、淡路由良港、紀伊湯浅港、周参見港、南紀大島港、串本港、浦上港、勝浦港、九鬼港、須賀利港、的矢渡鹿野港、伊豆妻良港、下田港、三浦三崎港の13港でした。風待ち港とは、今の機船と違い自然に左右される帆船が就航していた江戸時代にライナー(定期航路就航船)の菱垣廻船やトランパー(酒などの専用船)の樽廻船が荒天を避けたり、追い風追い潮になる時を待ったりした港です。風待ち港には近くに小高い山、日和山がありました。日和山には方位石あるいは方角石と呼ばれる石がありました。菱垣廻船の船頭は、日和山山頂で方位を確認しつつ次の航海の方角の天候を予測し、出港の時期を決めていました。寄港地13港の中で方位石が残っていた港は的矢港(写真2)と妻良港でした。それぞれの港は遠州灘を隔てて西の的矢、東の妻良になります。遠州灘は延々と遠浅の砂浜が続き風浪を避ける良港がありません。従

って2, 3日好天が続く機会を予測して出港しなければならず、多くの船が停泊していました。事実、的矢渡鹿野港では停泊している船を描いた絵が残っていましたし、伊豆妻良港では漁師の方々から「妻良と対岸の小浦との間の1キロの海を舷側から舷側へと船を乗り継いで渡れたほど港に船がひしめいていた。」とのお話を聞きました。淡路由良港では成ヶ島の頂き(写真3)から、周参見港では萬福寺裏山(写真4)から、南紀大島では金山(写真5)から、九鬼港では日和山から、下田港では寝仏山裾(写真6)から海が見渡せました。浦上港では、「昔は見晴らしが良かったけれど、今の時代では薪を焚くことがなくなり山に入り木を切ることもなくなったから眺望が悪くなってしまったのかなあ。」とか、須賀利港では、「小学生の時には上ったことがあるけれど今では行ったこともないので道はなくなっているよ。」ということをおばあさん達から聞きました。

「どの港でも海や空が見渡せる日和山に誰もが手軽に登れるようになればいいなあ。」と感じた航海でした。

この航海で使用した横断幕(写真1)の材料はセイルオーから提供されたものです。ありがとうございました。

2) 朝鮮通信使の足跡をたどる夢航海

風待ち港の航海を終えた10日後の6月8日、対馬から大阪までの朝鮮通信使の足跡をたどる航海に出ました。サザンクロスが入港した朝鮮通信使が寄港した港は、長崎県対馬比田勝港、厳原港、壱岐勝本港、福岡県相ノ島、地ノ島、下関港、上関港、下蒲刈島、鞆の浦港、牛窓港の10港です。

第一レグは大阪から博多までの九つの橋(写真1)を潜りながらの瀬戸内航海8日間。サザンクロスの修理を常にお願している岡崎造船のある小豆島琴塚や同級生、先輩のいる周防大島安下庄(居酒屋『政』)に寄港したり、一昨年のお遍路航海の途上に出会ったヨット『RIKI』と愛媛県弓削で鍋を囲んだりの旧交を温める航海でした。また、安芸宮島の厳島神社や世界遺産になった筑前大島の宗像中津宮(写真2)への参拝もしました。途中、朝鮮通信使が寄港した福岡県地ノ島、相ノ島の港も覗きました。

第2レグは博多から対馬を一回りして博多までの7日間。博多を出港して壱岐郷ノ浦港に向かいました。郷ノ浦でレンタカーを借りてほぼ壱岐を一周しました。昨年も郷ノ浦を訪れていますが、その時に行けなかった天照大神の妹をお祀りするパワースポット月読神社や壱岐南端の海豚鼻を回りました。夕食は名物ウニ丼。翌日は厳原港。厳原には朝鮮通信使の謁見を受けた宗家の居城があります。宗家の墓所や朝鮮通信使が宿泊した国分寺を散策しました。翌日は時計回りに対馬の南西端の豆敷(つつ)岬を回り、静穏度抜群の浅茅(あそう)湾の美津島漁協棧橋に係留(写真3)しました。対馬はかつて一つの島でしたが、戦前に海軍が最小幅40mの水道(写真4)を掘削した結果、上島と下島の二島になりました。上島の北端の岬から釜山までの距離は49キロ。展望台から釜山の夜景が見えるそうです。美津島に2泊し、対馬の北西端の棹尾崎を海から眺め比田勝に入港。朝鮮通信使は釜山から出港し比田勝西浜に仮泊しています。翌日、世界遺産の島『沖ノ島』(写真5)を一周して壱岐勝本港に。沖ノ島の頂には雲がかかり残念ながら全貌は見えませんでした。勝本港はイカ釣り船が舷を連ねて停泊しており、夕刻になると一斉に出港し港は空っぽになります。夕食には朝どれのイカ刺し。翌日は博多港に帰港しました。

第3レグは博多から大阪までの6日間。出港前夜に広報担当北村さんからお聞きした『くらり庵』で、おでんやモツ焼、焼き鳥とお酒を堪能しました。翌早朝、博多港を出港。翌日の昼頃に台風3号が通過するとの情報があり、下関港に入港し岸壁に係留しましたが、避泊出

来そうもないので急遽新門司マリーナに移動しました。レンタカーで下関港の朝鮮通信使上陸之地などを視察。翌日は台風の通過待ち。コクピットをホロで覆い、昼食には鍋。延々と宴を楽しみました。翌日、上関港に向かう。上関町郷土史学習館の松村様に緒戦通信使に関する説明と案内をしていただきました。ホールの緞帳が朝鮮通信使の停泊図(写真6)なのには驚きました。翌日は下蒲刈港に向かう。「安芸蒲刈御馳走一番」と言われたほどの歓待ぶりを示す、往時の記録をもとに全国から集めた食材を使つての豪華な膳を復元した下蒲刈資料館の展示は圧巻でした。ここでは毎年朝鮮通信使のパレードが行われています。この日は今治海の駅に停泊。翌日、鞆の浦に向かう。鞆の浦は古くからの風待ち潮待ちの港で、豊後水道から昇ってくる潮と紀伊水道から昇ってくる潮がぶつかり合うところで、かつては、引き潮になると西に東に出港する船が見られました。朝鮮通信使の宿泊場所でそこからの眺望を朝鮮通信使李邦彦が「日東第一形勝」と言ったほどの福禅寺対潮楼(写真6)を海から眺め、塩飽の島々を眺めながら牛窓に。牛窓での宿泊場所は本蓮寺。江戸時代の山門や本堂が残っています。翌日、一か月ぶりに大阪港に帰港しました。朝鮮通信使は、大阪で御座船に乗り換え、淀川を伏見まで遡ったそうです。

(中路さん)

3) 長崎～熊本県天草下島一周クルーズ

長崎赴任中の北村です。7月15日(土)～17日(月・海の日)の3日間で、長崎で所属しているウェンディ号のクルーズに夫婦で参加、乗組員7名で周遊してきました。

15日(土)は朝07:25長崎サンセットマリーナを出港し、高島、軍艦島、野母崎、樺島を抜け天草下島南端の牛深港を目指すコース。

出港して間もなく、長崎の香焼(こうやぎ)沖でイルカが並走してきました。確認出来ただけでも10頭近くはおり、こんな港近くでイルカを見られるとは夢にも思わなかったので興奮気味に撮影しておりました。ちなみに長崎近隣では長崎県南島原市の口之津～熊本県天草市の間の早崎瀬戸と言われる海域でイルカ見学ツアーがあります。

一時間ほど航行すると軍艦島が、その先は釣り場として人気のある野母崎、樺島が見えてきます。そこを過ぎると広い海が広がりますが、途中トローリングしていると体長80cmぐらいの美しい色をしたシイラがかかり翌朝の食卓に並びました。

目印の赤い橋脚をくぐり14:50牛深港に入港。静かな港町ですが行き交う漁船の引き波が意外と激しい環境です。買い出しをしてからバスに乗り近場の温泉に入って猛暑の中での一日目の航行の汗を流し、居酒屋では2日目以降の無事を願い全員で乾杯。晩飯後はヨット当直の2名を残し他5名は宿に向かいました。

宿は天草で造船所を営んでおられるご家族が経営されており、居間にはロープワークの額や船の模型があちこちに飾られていました。

16日(日)は8:00牛深港を出港。天草下島の東岸を北上し上島との間の水道を通って昇開橋をくぐり、長崎県島原半島と熊本県天草下島との間の早崎瀬戸を西に進み天草郡荅北町最北西端の富岡港を目指すコース。

出港して数十分、牛深沖合で船を停泊させ、数人で釣り糸を垂らすといきなり二人の竿に鯛がかかりました。幸先の良い事です。この鯛は後ほど捌かれ一献のお供となりました。

両側に美しい島々を見ながら熊本県～鹿児島県の県境海域を進み、その後に海が泥交じりの色に変わりだした辺りから、浅いところで水深2mほど、上島との幅が最も狭い所で50mもない水道に入り慎重に北上して昇開橋をくぐると前方に島原湾、島原半島、雲仙普賢岳を見渡す穏やかな景色が広がり、西に変針して早崎瀬戸を横断。